いらつめ

毎月四回發行

いらつめ第卅一號目次（明治二十二年十一月十五日）

●木板挿畫……押し繪新意匠紅葉の寫眞掛け

●小　說……心づくし第二回中……毛布野女史

●家　政……押し繪作り方（其一）……石原一枝孃

押し繪に必要の道具類＝箸入れ＝紅葉の寫眞掛け＝箸製法

○衞生料理法（其三）……岩間芳松

芋の肉汁＝玉子入り肉汁＝玉子豆腐入り肉汁＝玉子素麵肉汁＝生害豆肉汁＝赤茄子肉汁＝燒き肉汁＝脂肪＝パン粉等製法＝油拔け物心得＝海老の心得

●文藝美術……唱歌作り方（廿八號續き）

○萬契千秋（和歌）……中根香亭上

○那須與一（和歌）……同

○即興祝意（和歌）……山田美妙上

○那須與一（和歌）……同

○紅葉（和歌）……同上

○第六回懸賞文藝得點の分

俳句和歌今樣唱歌

●答　書……一般に有効のヲキガ撩法○羅紗帽子洗濯法

●寄　書……料理の目的（承前）……小雨漁史

●雜　纂……身體白色法に付いての一切の心得＝國語お事づくし（其三）＝東洋の婦女批評＝日本語學起原及び其必用（承前）……さわ。＝日本語使用人數概算＝高等女學校生徒大にリットルウーマンを愛す＝小松の羽二重金巾批評

●小　說……松の下露第二滴下……老妙齋主人

●通信問答……鐵器の氣を拔く法＝漆器の臭氣をとる法＝複寫盤製法＝上着を下着と揃へる裁縫法＝ヴァイオリンの糸代價＝くゝの唱歌符號＝洋燈の風除け器械＝習字手本

外に第廿八號餘興の答へ及び解當者姓名

社告及び社則

いらつめ一部並製金三錢五厘郵稅共金三錢、十二部金二十九錢郵稅共金三十五錢、二十四部金五十七錢郵稅共金六十九錢、三十六部金八十四錢郵稅共金一圓〇二錢、四十八部金一圓郵稅共金一圓三十四錢●別製一部金三錢五厘郵稅共金四錢、二十部金六十五錢郵稅共七十五錢、五十部金一圓六十五錢郵稅共金一圓九十錢●並別兩製共前金領收の上で無くては差上げぬ事●府內に限り無郵稅●每月四回（八日十五日二十二日三十日）發兌●金子御差し送りの手續きは郵便小爲替なれば拂濟郵便局さある處に（神田郵便局）と記し、受取人欄內に（神田平永町九番地成美社）と御記入の事●郵劵代用は郵便爲替の無い處に限り五厘切手で一割り增しなれば妨げ無い事●見本は五厘切手で並製三錢別製四錢領收の上差上げます●廣告料一行金八錢、割引無し●第廿八號から本社から賣り出す證として雜誌の表紙に成美社の捺印を加へましたから是を目標として御求めを願ひます。捺印の無い雜誌に就いては本社で一切責に任じません。捺印の無いのを御求に爲ッても代金御支拂に及びません。

從第二十八號至第三十七號十部版權所有

新案別製本出版の社告　度々の御注文により第二十六號からいらつめ別製本を作り、永く保存に堪へるやうにしました。（一）別製本は美麗堅牢な紙に本文を印刷する事（二）別製は容易に再版をせぬ事ゆゑ御注文は至急で無ければ賣れ切れになります（三）別製並製共記事は相同じです（四）定價は前にあります（五）第二十六號第二十七號及び第二十八號の別製本は悉皆賣れ切れになりました。

いらつめ合本の社告　西洋諸國の婦人雜誌では大抵一個か一ペンニの月三回以上發兌でそれを一ヶ月の後になり、一ヶ月分だけ合本し、表紙を付けて賣り出します。いらつめでも是に倣ひ、來る十二月が過ぐれば更に十二月分だけを合本し、美麗な表紙を付けて賣り出します。定價金十錢五厘郵稅共金十二錢、紙數八十四ページ、總目錄付き。府內無郵稅。但し本十一月に限り十月の第廿八號から十一月最後の三十三號に至るまで總六册を一部に合本して賣ります是は續稿になッた記事が彼是ある爲めです是は定價十五錢五厘郵稅共十七錢五厘です。

注意

本號には身體白色法に關する一切の心得と押し繪作り方とが出て居ます

明治二十二年十一月十四日印刷
明治二十二年十一月十五日出版

發行人　東京市神田區平永町九番地居住　山田武太郎

印刷人　同市同區同町同番地成美社方寄留　佐野忠吉

發行所　東京市神田區平永町九番地　成美社

いらつめ第三十一號

小説

第二回中

毛布野女史

「え丶拙者ことは宅間信種と申しまして御覧の如く零落果て見るかげもない身の上。娘が毎度御世話になりますることを存じながらも未だ御禮にも出ませんで………」

何う致しまして、其の御挨拶は後方此方。今日何うか斯うか商賣を致して居りまするのも必竟皆御得意さまの御引立。斯う申しも如何ですが兼々お嬢さんの御心掛を承ッて實に蔭ながら感心致して居りまする」。

「いやはや御譽にあづかりて赤面の至り。彼が孝行をして呉れるので漸く露命を繋いで居る不仕合。夫れに就て實は折入りて貴殿に御願がありますが御聞入下さいましやうか」。

「どのやうなことかは存じませんが、若し私が適ひまするとなら私が兼ての希望いや、御望み遊ばすことはなんなりとも御遠慮なく」。

「然らば申ませうが實は此頃思ひ掛もない金子が手に入ッたので之を資本に何がな商法とと種々考へて見ましたけれど何をいふにも箇樣なことは殆んど不得手の拙者。然るに娘の思ひつきで毛糸の商賣をして見たいとのこと。是れとて覺束ないことですが、折角思ひ立ッたことでもあり貴殿の御世話で………」

と云ひつゝ懐中掻き探ぐり、金子の包を取り出し、やをら主人の前に置き、尙は語を繼いで述べんとするを頷きながら聞き居たる彌七は急に遮ぎりて、

「何かと思ひますれば店を御出しになりたいとの御相談。私も商賣のこと委細承知致しました。したが貴君に此の御金がなくッては開店等の諸入費に御都合惡るくはありませぬか。品物のことなれば幾干でも差上ますが」。

「と云ッて外に抵當に入れるやうなものとては………」。

「抵當なんぞを頂くには及びません。して勘定のことは斯う致しましやう。賣上げの利益から幾分かづゝを御返しになるとも復は御都合に依りましては後になさるとも其時の御相談として先づ此の金は御持ち歸りになッて宜しう御坐ります。併し毛糸の商法は第一土地によりまするもの其邊の御心當りは………」

「それ等は未だ一向に考はないのです」。

此時彌七は喚鐘を鳴らし、清吉といふ主管を呼しに音に應じて入り來れり。　升を先づ信種に引合はせし後、
委しいことは後で話すが、旦那には今度毛糸の商法を御始になるに就いては差當り場處等のことから万事汝が心得て御相談をするがよい。　して去刻申付たものを早く。
と命を受けたる清吉は委細を呑み込み退きしが、間もなく再び入り來り、準備の既に整ひし旨を主人に報ぜれば、彌七は宅間と誘ひて別間に案内せんとする、信種再三辭退せしかど強ッての勸めに默止しがたく主人の跡に接て往く。　幾間を隔てし其奥に日本造りの閑室あり。　狹しといへど庭もあり數寄を盡せし結構は最と風流に見えたりける。　此處に至りて信種を上坐に直して、
「別段何にもありませんが御近づきの爲め一獻差上たく。何うぞ御緩ッくり遊ばして。」
「是れはどうも汗顏の至り、決して御構下さるな」。
と云ふ中早くも酒肴を出し、事に慣れたる清吉は主客の間に周旋する饗應振りの行き届きしかば、主人も客も興に入り、差しつ押へつ酒宴に時刻の移るも知らざりける。

家政

押し繪作り方

石原かづえ子

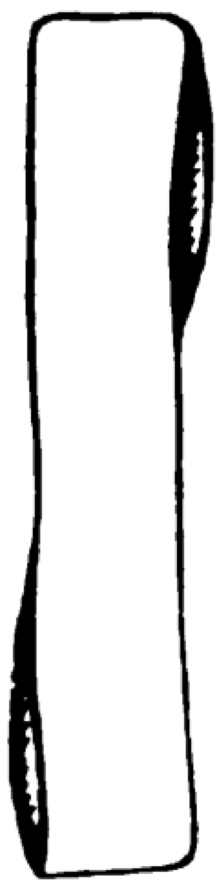
押し繪は西洋のキャンバスのやうに日々の用には爲らずとも婦人に於てはいくらか美術思想を練る一端とも思はれますこの頃になッて是が大層流行し、女學校は言ふまでも無く、小學校の女生徒にも之を學ぶ者が多くなッたやうです。　因ッて一は其人たちの手助けのため、一は是から學ばうと思ふ姫方の手ほどきのため、是から此雜誌にも新らしい意匠の畫形、及び張り方について充分掲げるつもりです。

押繪細工に必要の道具類は篦、熨斗、剪刀、切り出し小刀板目紙などです。　熨斗は切地の折り返ッた處などの皺を伸ばすため用ゐます。が、衣服などゝは違ひ。一体に輕くあてるのです。　鋏は切地を裁ち或は切るために用ゐます。　篦は切地を折り返す時すべて篦で押し付け、また板目紙を切る時目標の線を引くのに入ります。　切り出しは板目紙を裁つに用ゐます。　板目紙は種々の繪形を畫くため必ず用ゐます糊は一般に御膳粒のねッたのか又は粉糊を用ゐます。　が第一と言ふべき物は白玉の粉の糊です。　其故は前の二品は切地に浸み出る事が有りますが、白玉粉の糊は毛頭その掛念

がないからです。　いらつめ方の中には既に御上達の方も有りましやうが、妾ハ順序を踏んで先最初のやさしい處から述べるつもりです。

一　箸入れ

箸入れにも色々有りますが、一番やさしいのは袖形の箸入れとて即ち圖のやうに袖と八口とに似た、極めて簡單な組み立ての箸入れです。



之に用ゐる切地は縮緬か絖が宜くて色はまづ白赤紫の三種です。　第一の表の上張りは白、次は赤又は紅で張り、次は紫または綠と張り、三色を併せて袖口と八口のやうにし、箸を入れる口は袖口の方にしろ、八口にしろ、隨意に決めるのです。　が、兩口共あけてはいけません。　どちらか一方は塞ぐのです。

二　張り方に就いての一般の注意

さて張り方に就いての一般の注意を言ひましやう。　まづ自分の思ふ物の圖を薄紙に寫して形紙の上へ載せ、箆でその上を押しつけ、押した痕に從ッて鋏で畫形を丁寧に切り抜きそれから綿一枚程薄く布き、切地を當て、形にあはせて切り裏の方へ鏝を輕くあてるのを第一の仕方とします。　が、世の人は多く右の方に因らず、畫形と直に板目紙に張り付け、切り出しで切り取り、それから張りますが、是では仕上げが餘り手際よく行きません。　其故は切り出しで切り込む事ゆゑ切り方が些しでも違へば切地が合はなくなるからです。それ故初學の人は畫形をば張らず、前に妾が云ッたやうに爲さるのが最も宜しいのです。

三　紅葉の寫眞掛け

次の片紙にあるのが新形の紅葉の寫眞掛けで、丁度圖は通常の名刺形　寫眞の大さに合はせた物ですから其位の寫眞掛けを作るには直この圖を薄紙に取ッて板目紙へ切り拔いて宜しいのです。　即ち前に云ッた法に因ッて臺紙に圖を切り拔き、青梅綿を大抵薄く二枚程入れ、淺黄、薄青、又は白茶の縮緬で張り、よく注意して裏へ鏝をかけ、据わりを定め、扨紅葉の摸樣を置くのです。　葉は造花の繪具をもちゐて、まだ色々張らぬ前に思ふまゝ、染めるが宜しいです。　が、用ゐ馴れぬ人はそれでなく紅、綠、黃、これら三種の縮緬で張る方が甘く行きます。　又木は濃い茶色、鳶色（濃淡いづれでも）、或は濃い茶鼠の縮緬か又は絹で張るのです。　葉際の細枝は紅の絹糸に糊を付けて張りつけて拵へるのです。

寫真

改良實用衛生料理法(其三)

元鹿鳴館料理方　岩間芳松

五　芋の肉汁　馬鈴薯の皮を去り、薄く切りて水に入れ置き、西洋葱を薄く切り、肉汁の脂肪にて葱と鍋の中にてよく〳〵交せ、鹽胡椒を加へ、薯へ肉汁を入れ、鍋に蓋して徐々煮、毛水篩にて漉し、用ゐるなり。宛然汁粉の如き汁出來るなり。

六　玉子入り肉汁　玉子を小皿に割り、鍋に鹽を入れ沸湯を仕立て置き　鍋を火の外に置きて玉子を入れ、半熟にし、周圍を少々切り、肉汁に入れて用ゐるべし。

七　玉子豆腐入り肉汁　玉子二を丼に割り、よく攪きませ、肉汁を玉子一程の分量にて入れ、沸湯にて徐々蒸し、玉子を賽の目に切り、肉汁を入れて用ゐるべし。

八　玉子索麪肉汁　玉子索麪を五六分に切り、湯出て肉汁に入れ、用ゐるべし。

九　生靑豆肉汁　生豌豆鹽湯に少し重炭酸曹達を入れ、湯出、水に取り、毛水篩の裏より押し漉しになし、肉汁にて伸ばし、よく〳〵攪きませ　芋肉汁の如く　パンを賽の目に切り、バタを鍋に少し入れ、火にかけて鎔かし、之へパンを入れて煮り付け、茶色になるを待ち肉汁に入れて用ゐるなり。　生蠶豆は皮を去り、豌豆と同じくして用ゐるべし。

十　赤茄子肉汁　赤茄子(一名トマト)の下の蔕と細き小刀にて丸くゑぐり水にて洗ひ、横にして二に切り、種を絞り出し置き、丸葱を縦に薄く切り、鍋に肉汁の脂肪と葱とを入れ、少し煎り、夫より赤茄子を入れ、鹽胡椒をふり、弱火にて徐々煮、之を毛水篩にて裏より押し漉しになし、肉汁にて伸ばし、又火に掛け、鹽味を付けて用ゐるなり。　此外肉汁仕立て方數多あれども右を初學の分として一先其餘をこゝには略す。

第二　燒肉汁製法

十一　燒肉汁　葱人參二種を薄く切り、藪肉桂の葉一枚皮にて及び蒜を極々薄く切り、チン(匂ひ草にて西洋八百屋にあり)一切と少しもよし加へ、脂肪を些しとかし、野菜物は鍋底に入れ、スープ肉又は鳥の骨等を入れ、鹽胡椒をふり、弱火に載せ、度々上下攪きまはし、香ばしき匂ひを付くるなり。　此時强火なれば焦げて味苦くなる故心すべし。　夫より水にても少し加へ、又　色の付きたる頃前の如くする事三四度にして肉一斤に付き水七八合の割りに水を加へ、滓を充分除き、蓋をして煮る

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

事肉スープに同じ。又浮きたる脂肪を毛水篩にて漉して貯へ置けば燒肉煮物などに用ゐる事を得べし。

第三　脂肪製法

十二　脂肪　食用の油は牛の油を最上とす。羊の脂肪は香氣強くして惡く、豚の脂肪は下等品なり。牛の生油一斤を極細く切り、鍋に入れ、水一合程加へ、烈火にかけ、度々鍋の中をよく攪きまはし、次第に水氣の去るに從ひ、火を弱くなすべし。此時火氣強ければ油燒け焦げ大に味を損ずるなり。鍋底より泡の出ぬを見料らひ、油一斤に付き葱二本薄く切り、藪肉桂の葉一枚を入れ、茶色になりたるを見て火の外におろし置き十五分時間を經て丼の中へ毛水篩にて漉し置くべし。葱肉桂を加ふるは牛の匂ひを消すためなり。此脂肪及び次のパン粉は後に至りて大に必要なればよく注意すべし。

第四　パン粉製法

十三　パン粉　堅くなりしパン、又はパンの屑を炮烙にて煎り、擂鉢にてよく擂り、毛水篩にて篩ひ、壷或は函に入れ、濕氣を拂ひて貯ふるべし。また乾物屋に觀世麸一名燒麸といふ物あり。之を前の如く煎りてもパン粉の代用を爲すべし。すべて是等の粉は揚げ物に用ゐるなり。

第五　油揚げ物心得

油揚げ物には牛の脂肪或は胡麻の油を烈火に載せ、華氏三百四十五度にして少し油に烟を發す。三百八十度より四百度に至りて、揚ぐる品を入るれば其品の內外に存する蛋白質を閉ぢ、油は品の內部に浸み込まず。故に油鍋に一面烟の立ちたるを見て品を入るゝべし。但し品を一時に入れて揚ぐるは惡し。かくては油の熱度を殺ぐ理なり。油の熱度不足なれば油其品の中に浸み込み、味と消化と兩ながら惡くせしむる物なり。

第六　一切の揚げ物

十五　海老の心得　海老の揚げ方を記す前其心得を言ふべし。是は內外人共に賞翫すれども不消化品にて筋多く油少し。故に油を用ゐて調理するをよしとす。而して必ず胡椒を用ゐるべし。是消化を助くる故なり。西洋料理にては、マヨネッソース（オリブ油、酢芥子、玉子等にて製せし汁）を用ゐて消化を助くるなり。マヨネッソースは實驗の練磨によらざれば製する事わたはす。故に爰に省く。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

文藝美術

唱歌作り方(廿八號つゞき)

さて譜曲です。初學に最も適當な譜曲は左の種類です。

(一)七五の四句。　即ち七五の句が四句あるといふ事。
(二)七五の八句。　〃〃　〃　八句　〃　〃　〃　〃
(三)四四の四句。　〃〃四四　〃　四句　〃　〃　〃　〃
(四)四四の八句。　〃〃〃　〃　八句　〃　〃　〃　〃

例と擧げて示せば、「(以上初句)クモヤニサケブ(七)ホトヽギス(五)
カキテニ　ニホフ(七)ウツギバナ(五)(右第二句)ナツキニケリト
(七)アメツナニ(五)(右第三句)アラソヒツグル(七)ハナトトリ(五)
(右結句)」は丁度第一の七五の四句によッた物で、其他小學唱歌集と繙けば自餘の三種に據ッたのも色々見當ります。

さて何故に右の四種を一番初學に適する物かと言ふに言葉の用ゐ方に於て此四種は最も容易であるからです。唱歌の譜格は色々千變萬化の變體を持つ物。で、七六の句などになると、譜次第で是非とも三四三三(即ち七六)にするか、四三二四(即ち七六)にするか爲なければならぬ事が有ります。處を七五の便利は其掛念が殆ど無い事です。素より七が一轉すれば八となり、五が一轉すれば直に六となるには違ひ無い事。が、七五は兎に角四三三五でも三四五五でも大して差支へる事も有りません。勿論どちらかと言へば格律の正しい物が何よりよく、即ち初學の人は七五の四句を作るにしろ「四三五五(一句)三四五五(二句)三四五五(三句)三四五五(四句)」などゝ作らずに正しく「四三五五(一句)四三五五(二句)四三五五(三句)四三五五(四句)」と作る方が幾段か好いには相違有りませんが、何にしろ、又彼是取り交へて大して不都合の起らぬ處と見れば七五は最も便利な格です。八八の句も同様、これは何うしても窮した言葉を用ゐられぬ格、それ故是も初學に適當するのです。

句に言葉を入れる心得

既に歌か俳諧を學んだ人は御存じですが、で無い人ハ言葉に何う何と入れていゝか分かりますまい。まづ自分が用ゐやうと思ふ言葉の數を御覧なさい。假りに其言葉が「シグレ」といふ言葉であッたなら其數はシとグとレとの三です。是を七五の句に用ゐるに當り先最初の七に入れるにはシグレハ三音ですから猶七にハ四音足りません。それ故今度は四音と塡めて七を拵へるのです。で、さうなれば「シグレフリシク」となりと、「シグレゾヘレテ」となりとわが思ふ心を述べるのです。爰に熟練と不熟練との區別が有るので熟

練の人はそればかりの鑄型の中で自由にわが思想と言ひ盡くしますが、不熟練の人は左樣行きません。

字あまり

外に代用の言葉も無い時には字餘りといふ事を餘義なくします。（春の彌生）の結句に「カヽラヌミネコソ　ナカリケレ」とある、此「カヽラヌミネコソ」は總計八音で、即ち七より一音多いです。　が、代用する物の無いため餘義なく字餘りとして八にしたのです。　しかし字あまりハ決して二字と多くならぬ樣に爲なければ爲りません。　一字に限る物です。　そして是は七と五に限るもので、七が字餘りになッて八となり、五が字餘りになッて六となるなら宜しいですが、四四の句などに於てはまづ忌むべき物です。　又一句の中に二つ字あまりと爲るのは惡い事です。　可なり前人に其樣な例も有りますが、學ぶべき物では有りません。　即ち七五の一句で、前の七も字餘りで八、後の五も字餘りで六などゝなるのは惡いのです。　前が字餘りになッたなら後はなるべく字餘りにせぬのが宜しいのです。　字餘りについては古人が和歌に付いて言ッた說もありますが、迂遠な論ゆゑ參考として取り上げませんでした。

菊契千秋　　中根香亭

けふよりハ御園にたひしわかくさの
千代へむ花ぞさきそめにける。

那須與一　　中根香亭

あふぎ射しますちをが名ハたかの羽の
やしまのうらになりわたるかな。

即興祝意　　山田美妙

明治二十二年十一月三日やがて薄曇りせしかど、曙の旭日黃金の光りを布きて茅屋までもめぐみてりわたりぬ。

こゝのへにいま咲く菊の千代までも
ながくにほへと旭日かゞやく。

那須與一　　山田美妙

ふたゝびは似る音もなし、ものゝふの
やしまのうらは名のみなりけり。

紅葉　　山田美妙

やがてちる物とも知らでにしき着る
紅葉におはふそでも無きかな。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第六回懸賞文藝得點の分

題　紅葉少女

取捨標準　第一意匠の新奇○第二調或は修辭○此二件を備へた完全の物を一等とする事。

右いらつめ一部進呈の分

○俳句

とめ子の顔に艶ろふ紅葉かな……奥村みちえ（ギフ）

紅葉見や花にも逢ひし少女づれ……蕉風舎文里（オホサカ）

朱うばふ紅葉の下の少女かな……大久保（トウケイ）

右いらつめ一部進呈の分

○和歌

をと女子や見ていましめよ夕まぐれ
風さそふまゝ飛ぶ紅葉々を……羽柴芳江（ウセン）

右いらつめ一部進呈の分

をとめらが枝折りかさし紅葉々を
にしきのかつぎおほふかと見る……目時きぬ子（モリヲカ）

木のもとに賤がをと女もたちよれば
紅葉のにしき身にまたふなり……目時やす子（モリヲカ）

一葉二葉れつる紅葉ををさなくも
歸さの袖につゝむ少女子……太田まさ子（モリヲカ）

右いらつめ二部進呈の分

織るはたのあやにろめむと少女子が
紅葉の錦うちながむらむ……梶田成美（スルガ）

右いらつめ第三等賞三部進呈の分

をとめ子を敎へのにはのつたもみぢ
霜にかくよそろめいでにけり……永島芳子（井ブリ）

右いらつめ第二等賞十二部進呈の分

番外再考

はかまうでかへる少女がわゆみとめ
ふりかへりみるはいろもみぢば……菊のや露子（オホサカ）

少女子のやつれはせねどたらちめの
はゝろ紅葉のにしきからばや……琴水女史（オホサカ）

番外得點

秋たてばよるひるたちに立田ひめ
たで手一にろめしもみぢ葉……花川操女（ルナノ）

右いらつめ一部づゝ進呈の分

○今様

秋の山邊の薄くてく　ろめし梢のもみぢ葉を
けふも少女が袖たれて　たづね見る社優しけれ……堀内なみ江（イセ）

右いらつめ一部進呈の分

○唱歌……小宅雪子（トウケイ）

てりろふ姿、匂へる顔、　紅葉の下に少女子たてり。
紅葉はにしきとさらせる如く　少女は紅葉を簪すに似たり。
われは惑へり、紅葉と少女　いづれか優る、掉姫つげよ。

右いらつめ第三等賞三部進呈の分

答書

第廿八號疑問への答へ

問 羅紗帽子の汚點をおとす法……石川のぶ子

答 石炭油を薄く刷毛の類で帽子に灌ぎ、二三十分過ぎてハンケチを水にぬらし、絞り過ぎぬやう心して絞り、之を帽子に覆ひ、其上を熔鏝の充分やけたので幾度も擦れば汚點は去ります……右……武市長太郎(ノミ)

第廿九號疑問への答へ

問 一般に利くワキガ療法……ちとせ嬢

答 昇汞一ゲレイン　アルコール一オンス

右をよく調合して腋臭の處へ一日二回又は三回づゝ鳥の毛か筆で塗るのです……右……季水女史(オホサカ)

寄書

料理の目的(承前)　伏水　小[illegible]漪史

第十三　外觀をよくす　外見の醜美は三つの元素によります、色と形と位置とです、しかし衛生上てハ唯外見がよければ精神に愉快を覺え神經作用で幾分か消化を進めるといふ位のとで必要ではありません、此の點などへもはや衛生の範圍を脱して美術(一種の)の區域に移てゐると思へれます、形や位置は當でも御都合次第です、が色についてハ一言申さおけりやなりません、色は何んな色でも衛生上に益へありませんが、時として害があります、稀れには命を失ふ樣なともあります、青粉と綠青の間違ハ時々新聞の種になつてゐます、素人細工にハ色ハ用ひぬが安心です、必要なれば青は青菜黄ハ卵赤ハ梅酢おとと食で色を附るがようございます、形と位置ハ無駄な時間と費用の費ぬ限ハ細君の御工風に任します

食物を貯へるのも、一つの目的ですが、食物貯蓄法とて別の問題ですから略します

數て見れば割烹の目的も隨分多いものでハありませんが多くてもつゞまる處ハ、消化に適せしむると適宜の滋養品を擇ぶの外ハありません、是れが衛生上の割烹の主眼です、が通例人ハ味と外觀をよくする?―が注意しません、語を代へて申さば、世の人は口より、して外鼻と目を樂しましむるを目的としてゐます、衛生家ハ口より―して内胃腸と身体の利益を主眼としてゐます、世の人ハ口の爲めに―衛生家は腹の爲めにするのです、吾敬愛する好姉妹よ、割烹の加減は口を樂しましむると同時に腹を樂まして一家の健康を計られよ。

魔物の世の中。　人は人の狼です。　人を殺すのも人、人を食ふのも人です。　欺いて其人を死地におとしいれる、即ち是で人は人を殺し。　人をはたらかせて自ら衣食する、即ち人を食ふのです。　慈善義捐金や給料はわづかの言ひ譯ばかり、それは隱徳と信義とをわざ〳〵廣告する手段です。

雜纂

身躰白色法についての一切の心得

今までに身躰白色法をいらつめで彼是出しましたが、其間ハ實に言ふに言はれぬ苦辛をしたのです。 山師流の白色法は世に多い事、それを掲げるなら論も有りませんが、何しろ無害で結果のうまく行くといふ法ハ中々無く、些しハ歐米に有る物の、秘法になつて雲を掴むやうでよく分からず、それを漸くの事で探り中てたかと思へば藥品の成分があまり米食の日本人には適せぬなどの事が起り、或ハ取捨或ハ折衷、第廿四號で琴水女史へ答へを出すまでには可なりな時日も費したのです。 さて其以來白色法が聊か讀者の方々にも御解りに爲つた物の、猶また色々の御通信の趣きで考へれば充分に了解なされた方も少い様子、是では其道で無く法を御用ゐになるかも知れず、因つて少々重複の恐れも有りますが、爰に身躰白色法に關係する一切の注意を取り集めて載せるつもりです。 どうぞ此心得を熟讀して之に御據り下さい。

身躰白色法を行ふ心得に於て最も重なのは精神と身体とが平和を得る事で、即ち心をおだやかにし、身躰を丈夫にするのが第一の事です。 弱くて色の白い人も有りますが、此類は皆蒼白い顔をして居ます。

次には始終肌を洗ふのを怠らぬ事。

次には肌を洗ふに成るべく清い冷水を用ゐる事。 で無ければ極の微温湯を用ゐる事。

次には決して白粉及び其他顔手足を彩る物を用ゐぬ事。

次には酒を呑まぬ事。 酒に限らず魔酔さす物、興奮する物は成るべく用ゐぬ事。

次には汗を決して肌に留めぬ事。 汗が出たらば直に拭ひ去るべき事。 さりとて汗をおさへつけては爲らぬ事。

次には胃弱を防ぐ事。

次には毎朝一度(なるべくは一日三回)微温湯一合に硼砂小匕に半分ぐらゐ溶かしてそれで顔手足すべて色を白くしやうと思ふ處を洗ふのを怠らぬ事。

次にはサルサ根を内服して血を清浄にする事。 サルサ根といふのは植物の名で藥屋にあります。 サルサ根四オンスを六十四オンスの水に入れ、すこし煎立てゝまたサルサ根を取り出して更に丁寧につきくだき、前に煎立てた中へ入れてふたゝび煎立て、卅二オンスに煎じつめ、煎じ汁を絹で漉しそれを二オンスづゝ日に三度内服するのです。 一寸飲みに

くいです。が、飲むと便の通じもよくなり、そして食慾もすゝみ、次第に血を清くして、色艶を薄紅色に美しくします。
次には第廿四號に出した世界第一身體白色法と用ゐるのです。その原料のハンドコロン、是は御承知のとほり翁屋で調製しますから其製法はたゞ廿四號に譲ッて爰に出しますまい。此ハンドコロンにリスリンとアルコールとを交せて用ゐるやうに廿四號には出して置きましたが、今翁屋で製するハンドコロンには便利のため既にリスリンを交せて有りますから、もし翁屋のを御求めになればそればかり用ゐて宜しいのです。この用ゐ方はすべて色を白くする場處へ塗るのですが、制限は有りません、一日何回塗ッても搆ひません。但し水などで薄めて塗るのでは有りません。
次には肌を荒びさせぬために寒中はポマドンスールを塗るのです。が、ハンドコロンを塗ッたばかりの處へポマドンスールを塗るのは無益です。それ故これらの種類を併せての用ゐ方は終りに至ッてくはしく言ひましやう。
次には日に焼けぬやう注意するのです。大陽の光線にあふのは何より宜しいですが、日に焼けるのは注意すべき事です。日に焼けぬ藥はいらつめに出た處方に因り翁屋で梅の雪と言ッて調製して賣ッて居ます。
次にはわるい石鹸を用ゐぬ事。用ゐてい丶石鹸は英國のペーアスソープ、米國コルゲート商會のカシミーア ブケー、クリーバーのオルモンド アンド グリスリン ソープなどです。

(以下次號)

國語故事づくし(其三) 廿八號おこり廿九號つゞき

鳩にかへる身 釋迦の道念を試すため帝釋天が鷹となり毘首羯磨が鳩となり、鳩は鷹に逐はれて釋迦の腋の下に匿れました。それを鷹は出せと釋迦に迫る、釋迦は返さぬといふ、終に自身の肉を與へても鳩をば救ふと斷言してやがて身の肉を割く時、天たちまち香水を降らし、枯木にも花が咲き鳩も鷹も舊の姿の二天になり、疵の痕は直に治ッたと言ふ事が佛説に出て居た、それから起ッた言葉です。夫木集に俊頼「日をへつゝかりくらしても歸るかな、鳩にかはりし人もある世に」。

鳩も硯の水そへる 白氏文集にある事實から起ッた言葉で、かうあります。
行ひすました僧の道念に感じて鳩が僧の硯に水を運んだといふ言ひ傳へです。夫木集「いさぎよ

く蓮の法をうつしてぞ鳩も硯の水をろへける。
はりの鏡　淨玻璃の鏡です。　夫木集に仲正「てらすなるはりの鏡に罪ふかく忍ぶる戀ひや隱れなからむ。
はるの宮　東宮の事です。　夫木集に後京極殿「くれ竹のろのよりうつる春のみやかねても千代の色は見えにき。」
はる加はれる　春にある閏といひます。　古今集に伊勢「櫻花はるくはゝれる年だにも心の人にわかれやはせぬ」。
八省　中務省、式部省、治部省、民部省、兵部省、刑部省、大藏省、宮内省、これと八省と總稱します。
花のかぞいろ　雨の事で、雨は花を養ふものとて即ち雨の父母といふ義。朗詠に「養得自爲花父母」とあるに基づいたのです。

ぱッふォんが天才を解た說はかはッてさて至當な物です。其言葉によれば天才はたゞ非常に〳〵大きい忍耐の變体であるとの事です。

明治ハ重寶な時代。殊に政治家で美術を解すると宣言してさて「美」の定義さへ知らぬ人さへ有ります。

日本語學起原及び其必用　三十號つゞき　さ。わ。

さて又かの諸外國の語の入り交りたるによりて彼の國語に變じてわが國語になれるもの尠からず。はた我國語のかの國語の如くなれるもあり。ろは今試みに世の人に畠、峠などいふ字を示し、こは何國の語なるかと問はむには必ず漢語なりと答ふべし。又マシラ（猿）マダラ（斑）などいふ語を示し、こは何の國語なるかと問はむには必ずわが國語なりと答ふべし。ろは一は畫字ハ必ず漢語と心得て、其昔の和人が作りし物とハ知らず、訓讀は必ずわが國語と心得て、マシラハ梵語の摩斯陀の轉、マダラハ梵語の摩多羅（又曼陀羅とも云ふ。斑雜の義なり）より出でたることを知らず、此他枚擧に遑あらざれども試みに世の人の常に云ふ語を擧げなば
シッポク（卓袱）――料理にいふ字の唐音なり〇シックイ（漆喰）――石灰の唐音〇ソロバン（算盤）――唐音なるべし〇タバコ（烟草）――あめりかの島の名〇テラ（寺）――朝鮮古語泥留の轉なり。今ハ「チラ」といふよし〇トツクリ（德利）――何國の語にや〇ドンタク（日曜日）蘭語ゾンダクの訛り〇トラ（虎）――朝鮮語〇ノウレン（暖簾）――唐音なり〇パッチ――絹布の股引き。朝鮮語なりといふ。或

は洋語「パンツ」の訛りなりと○パン（麵包）――葡萄牙語Pan ○ビロウド（天鵞絨）――西班牙語 Velluda の轉○フシン（普請）――土木工事をいふ宋音○ブリキ（葉鐵）――蘭語 Blik なり○メリヤス（莫大小）――葡萄牙語なりといふ。長歌の短き物をいふは狂言の間の伸縮を補ふが故に名づくといふ○モンパ（紋羽）――綿の毛多き織り物をいふ。 洋語なるべし○ヲコ（烏滸）――南蠻國の名。笑ふべき事に用ふ以上の如し。 猶穿鑿したらむにはかゝる類は幾等もあるべし。 扨此中には原語の知れたるもあり、又知れざるもありて今の人の常にいふ語なれども其原語の何國より出でたるを知れるは希なり。 かくて因襲の久しき、遂に一種の國語となりて洋語にや國語にや遂に知る由なきに至らん。 必用七なり。

國粹保存論の流行。 今の美術文學政治社會は大抵國粹保存説に可もなく不可もなく吹きまくられて居ます。 が、それだけの浪、それだけの反動は必ず來る事です。 國粹保存論者が熱狂するだけ他日の反動は強くなる譯です。 よほど御考へになッて然るべく存じます、 其方々……

日本語を使用する總人數

此頃獨逸のカア――――といふ博士は世界中で最も人民が多く使ふ言葉を調べた末、支那語は四億人、印度語は一億人餘、英語は一億人、魯國語は七千萬人、獨逸語は五千七百萬人、西班牙語は四千七百萬人、及び佛語は四千萬人と報告しました。

今内務省の調査に係る日本全國人員表を見れば昨廿一年は人口三千九百六十萬餘人でした。 ならば兎に角彼是四千萬人は日本語を用ゐるのです。 其中死亡を七十萬人、出生を百萬と見積もり、そして死亡は日本語を用ゐる物、出生はまだ用ゐ得ぬ物として差し引き三十萬人、これが日本語を用ゐられぬ人數、是を前の四千萬人から引いても大した差には爲りません。 元より是は一時の興に過ぎぬ算へながら、語學を研究する人の最も着目すべき事です。 程度から言へば世界中で使用の數に於て日本語は先佛語に亞ぐ物です。 只比較を基礎として評すれば英語ハ第三位にあッても其實は米國をも交せて有るので、むしろ程度は魯國や獨逸語に劣る位です

高等女學校生諸嬢大にリットル、ウーマンを愛す。

高等女學校生諸嬢の中で英文學にリットル　ウーマンを修めて居る人たちは總べてその小說の人情に篤く、殊に母子の關係を綿密に、たくみに述べて有るといふ處から愛讀して措かず、敎塲で之を講ずるのを待ちわびる程との事です。　原著者は可憐の女性　愛讀の人も窈窕たる淑女、特に其母子の關係を叙した處を賞美されるとは——もし噂に聞く處が眞ならば——愛讀諸嬢の胸中いかにも床しく推し測られます。

戀愛を首とする小說、元より小說です。　併し戀愛を哲學的に見てそしてそれを讀み過ぐす人ハ女性のみならず男子さへも今日は大方無いともいふべき處、今高等女學校の此報に接して吾々ハ窃に畏敬して喜びます。　マルトラパースを讀む者得てマルトラパースに讀まれます。　リットル　ウーマン愛讀の餘諸嬢を讀むものむしろ之に讀まれたいものです。　愛讀の餘諸嬢の中にハみづから彤管を執ッて反譯に掛かられた向きも有るとか、久しからぬ內日本文學界にこれら諸嬢の譯になッた少女が笑みを含んで現れる事でしやう。

小松の保險羽二重金巾批評

保ちを思はず外觀のみを首とした羽二重金巾が有ッて見す見す外國品に壓せられて居る市塲に小松氏の保險羽二重金巾のやうな諸事抜け目なく用ゐ手の利益を計ッた物が出たのは何より喜ばしい事です。　針のとぢ穴といひ、染め色といひ染め口と見せた處といひ、如何にも保險付きだけの事は有ります。　色は熱湯に遇ッてもかはらぬとの事、細君方の最も悦ばれる物です

東洋の婦女批評

婦人を助けやうと思ふ者、或は思ふと人に宣言する者は多く筆を婦人雜誌に執る處、はるかに離れて而も毎々熱心に、まめやかに婦人に關して論ずる者は實に植木枝盛氏一人です。　植木氏が前に國民の友に出された子母の關係などを御覽になッた方は既に同氏の手並みを知られる事でしやう。此書はすなはち又我國の今日に極めて必要な、婦人についての注意です。　一讀の價ひある物とは言ふまでも有りません。それのみか吾々が此書に對して最も喜ぶのは有名の佐々城豊壽女史がその發行人となられた事です。　婦人で發行人となッたのは珍らしい處、是氣記憶すべき事です。

國華批評の二（三十號つゞき）

次にふェのろさ氏の浮世畫史考に於て吾々が喜ばぬのは美術を論じて文學との關係を更に言へぬ事です。美術と文學とは唇齒の關係を爲すとは誰しも大抵知った事、言はゞ美術は香りで文學と花です。其時代の美心へ其時代の文學に因って影響される物、文學の花が萎ためで美術が丁子である事へ迚も有ません。現に浮世畫（ふエ氏の意味によって）の中でも文學と一致して有る物へ幾許も有る事です。なるほど支那の理想を日本で承けた位の事へ書いてあります。さて何處に日本の理想はどうであったかと說いてありますか。支那の文物を直に輸入したからには多少日本の理想も支那と似もしました。が、其間區域へ果たして無かった物ですか。明らかに吾々が信ずる處によれば當時日本人の理想へ大に支那人の理想と違って居ました。日本文學は支那文學と違って居ました。白氏を學んだ詩人もありました。が、終に擬しただけでした。摩詰にかぶれた人も有りました。が、終に別の摩詰となりました。違って居たればこそ日本後代の進歩が早く現れて而も支那と一派ちがった處を現したのです。一概に支那の理想が有つたからと言つただけで完全な日本美術の評論が盡くされてありましやうか。まして文學の事に於て皆無研究の部が有りませんもの。充分の美術歷史と（ふエ氏は明言せぬにしろ）が缺けましやうか。が、著者は外人、これ〳〵が之を外人に望むのも又少し過ぎた望み、これ〳〵は今日日本人が自國の言語上の智識から此事を詳に研究するのを願ふのです。此望みは吾々が數年來抱いて居た事、あゝ猶今日に至つてもまだ見る事を得ません。思はず話しが横へ走りましたが、更に立ち戻れば、前言ふ通りの事實、飽くまでも吾々はふエ氏の此浮世繪考に服されません。過激な申し條ながら隨分流派の區別や人物の出現の時代、及び畫風の一變した時の事ほどは可なりな董骨屋が大抵知つて居る事です。吾々が學者に望むのは骨董屋の出來ぬ研究のみです。

次にびげろゥ氏の日本工藝家への注意と題する文、是にも失望しました。聞く處びげろゥ氏は日本美術を非常に愛玩されるよし、吾々は此點に於てむしろ博覽會の報告のやうな物を見やうとは思ひませんでした。如何にも此の說は至當です。が、五號活字で上席に出すだけの價値の有る物ですか。是等の說は既今まで萬國博覽會の報告が幾度も持ち來らした物、今日の工藝家が猶注意を怠るもわるいですがさて聞けば色々情實も有る事、事々しく書かずとも注意を要するだけに書いて宜しいです。併しながら思ひ直せば、可なりな日本紳士でさへ此の文を見て新說とか何とか言ふ者も多いとの事、これにつけても日本人が美術に冷淡であつた處も知れて、更にそれを口實とすればび氏の此文をよく注意を與へられた物として辨護しても宜しいです。

其他の文に就いては吾々と評を挾むのを好みません。兎に角吾々の赤心を言へば此の雜誌に就いて吾々が感服したのは其挿畫ばかりです。日本主義（改進派にしろ）と言はれながら見ぐるしい外國の飾畫のワクを用ゐて國華と朱印を捺りに押されたのは何か御論が有る事ですか。第一號に載せた文の中で吾々が最も厭ふのは雜報の中にある「粧飾美術と繪畫美術」及び「寫生畫の區域」（但しいづれも反譯）この二です。更に言ひ殘した表紙に就いて一口言へば無味な活版で「第一號」と而も不釣り合ひな處に出された、是は美術雜誌の名に聊か障つた事です。表紙の畫模樣及び色合ひは敬服しました。

御注意を願ひたいのは奇麗な字や對句で飾した文をなるべく御避けになる事です。平易に書いても意味が通じ難くなるのが美術論の常、折角御勘考願ひます。

吾々は主義が少々國華の諸君とは違ひます。純粹の日本派では有りますが、猶國粹派と言はれるのならば願はぬ方で、今までの評は眞の赤心その主義の相違からは加へなかつた積りです。愛玩の餘妄評多罪。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

小説

その二しづく下

美妙齋主人

謎々か、その新月の鎌も。　あゝ累にも用ゐられた──累、しかも、死んだ娘と一途に見た芝居でした、狂言の。　それは夫婦の間の嫉妬、是は親子愛惜の怨み。　兎に角後家で娘を育てゝ來た程の老女、くづをれて唯嘆きに蝕はれては居るものゝ、猶利かぬ氣は有りました。　利かぬ氣と云つてもよく中庸を得た剛毅といふよりはむしろ偏頗に意地がつよいといふ方の類。後家世帶で永年世間の無慈悲から意地をつゝかれた果ては終に平和な天性もいくらか横にねぢれた處、今盲目の怨念が身をせめさいなんだ末は命も入らなくなりました。

こゝに至つては片言を信ずるのが惡いとの氣も掛かぬものか、唯われを嘲り顏の千塚が目先きにちらつくのみでした。

「嘆けとて月やは物を」詩人は澄むとも見る、自分には冷…淡…鐵のやうな月。　次第に移る時刻、西山に名殘の色を血色に掠めて、今は星も銀粉をこぼして誰かはぢり出しでも爲さうな空合ひでした。　湿り氣は愛想にも無く、だれつたさうに時々あばれる亮風──風、このやうな風の時には昨日までは娘と共にひゞ藥をつけた事もあつたものを。

苦痛のために天地は定まり、恨みのために身は出來たやうな千塚から來た藥瓶、その貼り紙も小癪にさはる、むしろ瓶共たゝきつけたい。　たゞ鼠に投げる器、その瓶にも娘が飮んだ藥が有ッたかと思へば…あゝ涙！

眠りもせぬ内ながら宛然夢うつゝ、心だけ身を脱けたやうな心持ちになッて居ました。　處へたちまちその茫然となッた耳と胸と共にれどらせた音がしました。

一打ちつけた半鐘の音。　おやと思ふ間、何やら違ッた近處の樣子、われ知らず中腰にやゝ立ち上がりさうになる處へ更に耳をつらぬく人聲──「近い！」

急にかはる人の足音。　今は半鐘の音がするか何うか其方は早聞ねずなりました。　家内に來て居る人も一度にざわ立つ…窓を明けて…見るといへぬ間…其邊は一面の紅！

「こりや近いンだ！」　誰云ふとも無い一樣の言葉。　胴ぶるひ！　息切れ！　提灯に火を點けやうと思へば幾度も消えて仕舞ひ、繩でからげれば繩ハ切れる、その内に驅けつける知り人。その人の有りがたさ、命の親に逢ッたやうな心持ちでした。　今は嘆きも度をうしなつてか、殆ど影も見せず、主婦だけに傳令にいろがしくなりました。　わづかの間火元を——見る間も無く——聞き定めれば三軒ばかり風…わら！……上の家からとの事。　土藏は無し、荷をば運び出す事、阿母さんは荷の番にといたはッて忠告されても流石に慾で家をば去りかねて………

米櫃の中へ洋燈と入れるやら。つまらぬ物を大事さうに持ち出させるやら、引き出しを落として火鉢と出させるやら、鍋をつかんで手に草紙とこしらへるやら。　その中でも第一の物は金子、慾だけは正氣で居ました。　胴巻きにして腰へは付けましたが、兎角——おれッたい——空解けがして手間が掛かるばかり。　其内に手傳ひも少くなッた体、袖を引かれて氣がつけば火がついたから早く逃げろと云ふのは親類の一人。　おやと總毛立ッて家をば飛び出しましたが、出て思へば大事の〳〵娘の位牌を忘れました。

通信問答

心得第一　通信問答は無手數の事○第二　御問ひ合ハせの事が答へを載せる雜誌の八號以前にあればそれにハ委しく答へず、只其所在をのみ言ひます○特に普通に有益と認めた問ひには廣く答案を募ります○御問ひ合はせの文字並びに文章ハ明亮に書くべき事

吹菜軒　主人へ（一）漆の新葉を入れて湯で煎じれば錫瓶のカナ氣は拔けます（二）米の中へ二週間程埋めて置くと漆器の臭氣は取れます（三）複寫版製法。寒天三本、水飴十五匁、膠五匁、白水壹升。右四種をよく煮て交ぜ粒の出ぬやうにして麻布で滑な盤に漉し込み、冷めて固まつてから裏にしろ表にしろ滑な方を盤に用ゐるのです。　用ゐる前に吸取り紙で面の水氣を充分去り、之に原書を伏せ、十二三分過ぎて原書を剝取り字は悉く盤に寫ります。　それから西洋紙を其上に載せ、手で撫でると幾枚も刷れます。之に用ゐるインキハアルコール三十滴に葡萄酒の酢（無ければ通常の上酢でも）をすこし、及びアラビヤゴムすこしを交ぜ、黑色になる位に濃くアニリン（西洋紫粉を）交せるのです。　いらつめ謎解答紙ハ複寫版でハ無く、石版で刷つたのです。

大山しげ子様へ（一）絹布木綿に限らず總べて下着を上着に揃へるにハ其の褄處をも上等より少し多く縫ひ込み、殊に袖丈及び袖幅ハ外の處より中厘ほども多く縫ひ込むのです（二）東京京橋區竹川町十三番地共益商社書店でヴツイオリンの糸なば一組宛でも賣ります。　定價舶來糸一が十五錢、二が十七錢、三が十八錢、四が三十錢。日本糸一が四錢、二が五錢、三が三錢五厘、四が二十二錢五厘。舶來糸四把一組み八十錢、日本糸三十五錢（三）音樂のくの符でクレスセンドと云ひ、ピヤノに起りフフルテまで進む符號で、外に cres. とも書きます。　＞の符はヂミヌエンドと云ひ、フフルテに起りピアノまで下る符號で、外に decres とも dim. とも書きます。　右二を合はせたのが〈〉で之をスウエルと言ひます。

設樂勇雄様へ　ランプの風除けハたしか頻竟町の松非が始めて賣り出したと心得ます。

疑問　しッかりした手跡の女子手紙習字手本は何と言ひます（紫影庵書媛）

右確答の方には雜誌一部進上貴答本月かぎり

第廿八號餘興解答及び解答者

（一）キクノハナ、クリ、ノシ、ハリ、ナ（二）鏡の終り（加賀美濃尾張）（三）カモサギウモ、クリ、サクラ、ギリ、（四）武蔵遠江（六三四十十三）（五）礦（ミヅイシ）（六）釣り人の弁當（魚が食はぬ時に弁當を食ひます（七）磐城岩代（岩黄岩白）

右解答者ハ皆無でした。が、第五を石見さ解れたのも多少理が有りますから少々御慰勞の工夫をしました。卽ち七題解答者の中稲田太郎八田林吉の二氏は第五を石見とされました故此二氏に限り第卅號の謎五題解答されましたならボマドンヌールを上げます。

六題解答者の中北澤樂笑、田龍濯、大刀川さく、井口綠子久たか子、多賀崎ひさ子の六氏ハたゞ第六を失はれました故當號のいらつめを一部宛あげます。

別に中野逐麗、増田光子、小川初子、風間つる子、森島寬子、津田玉子、岩下ちよの、有本久光、戸野たけ子、下總みのや、設樂なほ子、芹澤春流、石川信子、小宅雪子、芳蘭女史、樋渡せん子、翠水廿史、芹澤高雄、遠藤ふさ子、藤井品子の諸氏は第六を失へれ、第五を石見とされました故此諸氏も第卅號の謎五題解答されましたらいらつめ一部を差し上げます。

但し北澤、田、大刀川、井口、久、多賀崎の六氏を除く外の諸氏で第卅號謎を皆答になれば稲田太郎、八田林吉の二氏に限りボマドンヌールの外にいらつめ別製一部其他の諸氏にハボマドンヌールばかりを進呈します。

成美社

○熱湯に遇ふて色を變せす
○保險小松羽二重金巾
東京市日本橋區
富澤町十七番地
小松太助

○いらつめ廢本廉價賣捌廣告

表紙などの少々損じたいらつめを廢本として今日から左の

非常廉價

で賣ります部數に限りの有る事ゆゑ御望みの方は至急に御申し込み下さい○但し廢本と云ッても本文にはすこしも損處は無い物のみです

第一號九部○第二號一部○第三號十八部○第四號十一部○第五號八部○第六號廿七部○第七號十三部○第八號十三部○第九號七部○第十號卅七部○第十一號四部○第十二號者無○第十三號四十四部○第十四號廿二部○第十五號四十部○第十六號第十五部○第十七號六部○第十八號廿四部○第十九號十八部○第廿號十二部○第廿一號十八部○第廿二號四十八部○第廿三號四十二部○第廿四號二十一部○第廿五號二部○以後廢本一も無し。

右一冊廉價金三錢（定價八錢）十部以上十五部以下一冊二錢五厘十六部以上廿五部以下一冊二錢○郵税各五厘宛○前金領收の上發送の事。

成美社發送掛

いちご姫

美妙齋主人事病氣のため都の花に掲載をしばらく休みし右小説義更に本月十七日の第二十七號より掲載す今回よりは姫が窟子の鎧を所望する坏いよいよ烈婦の實を現して快味一層を進めたり

東京日本橋區本町三丁目
都の花發行所
金港堂

正誤

第廿八號通信問答西村照子孃への答へにある硝酸こばるとは鹽酸こばるとの誤り。是はTNMRといふ人が注意を下さいました。○第廿九號通信問答中田さと子孃への答へにある軟水パイントは軟水一パイントの誤り。第廿七號懸賞文藝欄に三坂きぬ（オホサカ）とあるは三坂きぬ（サカヒ）の誤り